

## 2014年の年頭にあたって



幹事長 松崎 道幸（深川市立病院）

医療九条の会・北海道の会員の皆様。

日本の将来にとって激動・切迫の2014年が明けました。

安倍政権は、国内外の世論に逆らって特定秘密保護法を遮二無二成立させました。アメリカ政府が「安倍政権にはがっかりだ」とクレームをつけても、安倍首相は靖国神社（Yasukuni War Shrine）参拝を強行しました。韓国軍に武器を提供し、沖縄知事に辺野古沖の埋め立てを了承させました。原発を「基盤となる重要なベース電源」と位置づけたエネルギー基本計画案を発表して、原発再稼働に向けた政府の意志を明確に示しました。

絶対多数を占める国会の議席に支えられているはずの安倍政権はなぜ悪政を連発するのでしょうか？それは、彼らが国民の声と国際世論をおそれているからです。今年4月からの消費税増税により、内閣・与党支持率は急速に低下するから、その前に、やれることをやっておこうと考えていると分析する人もいます。

私たちは昨年2月の本会総会で明らかにした情勢分析と闘いの方向（★）に沿って活動を続けてきました。一例をあげると、千数百人に来ていただいた小出裕章さんの講演により、即時脱原発が道民の世論であることを示してきました。

憲法九条を守るたたかいをさらに進めましょう。一人でも多くの方々に、医療九条の会・北海道の輪を広げましょう。

★

1. 昨年の総選挙の結果、九条改憲をもくろむ諸政党・勢力が衆議院の3分の2を越え、本年の参議院選の結果によっては、九条改悪をはじめとした憲



目次

|                          |   |
|--------------------------|---|
| ◆2014年年頭にあたって（松崎道幸）…     | 1 |
| ◆特定秘密保護法について             |   |
| 堀元 進 ……………               | 2 |
| ◆今起こっていることをどのように捉えたらいいのか |   |
| 遠藤高弘 ……………               | 3 |
| ◆第8回総会・記念講演会のご案内 ……      | 6 |

法改悪の危険が極めて切迫した状況となりました。小選挙区制度という欠陥制度により民意とかけ離れた政党配置がもたらされたとは言え、大変危機的な状況になったと見なければいけません。九条改憲や集団的自衛権行使を許さないことが依然として主要な世論となっているとはいえ、今後、尖閣問題、北朝鮮核実験などをてこに、改憲策動を強めることが予想されます。

2. 私たち医療界で働く者にとって、消費税増税と TPP 参加の問題は重大です。もしこれらが実施されたなら、国民と医療機関に大きな悪影響がもたらされるでしょう。農業が基幹産業である北海道で農業と医療が立ち行かなくなれば、地域の崩壊につながります。日本医師会、北海道医師会、全中等と共同した闘いが必要です。また食の安全と主権を守るため、多国籍大企業の横暴を許さない闘いも必要です。

3. 憲法 25 条を取り巻く状況も深刻です。昨年来の生活保護バッシングをきっかけに、該当者の捕捉率が 10 % 台という低率にもかかわらず、給付レベルの引き下げが目論まれています。生活保護基準は他の多くの福祉給付と連動するため、この改悪により、わが国の貧困対策の一層の悪化が懸念されます。

4. 東日本大震災から 2 年が経とうとしています。原発事故の収束のめどがつかないまま、放射線管理区域と同等の放射能汚染の続く地域に多くの人々が居住を余儀なくされています。過酷事故を防ぐ手立てがなく、使用済み核燃料の処分法もなく、短期的に見ても経済的メリットがない原子力発電を即時中止することを国民大多数が望んでいます。

## 「特定秘密保護法について」

堀元 進 (旭町医院)

まずこの法案は国の在り方に関わる重大なレベルの法案として、戦後の日本で最も粗悪で性質が悪く、且つ有害甚だしい Virus である、と私は考えています。国家の在り方を変えます。なにより私たち市民の当たり前の日々、明日は前進しよう、という思考のベクトル、行動のベクトルに様々な影響を与える第三ベクトルが現れます。場合によってはベクトルの存在する空間自体が歪むと考えた方が良いでしょう。

この法案が扱う事の重要性に対し、法案が作り出す体系が余りに未熟、欠陥大なる点に対し、国連などからも世界レベルで警鐘が相次いでいます。日本ではあまり報道されていません。

この法案が法になった場合、それは様々な転写酵素、逆転写酵素を併せ持ち、自在な変異の可能性を内在し、今後、体内で静かにそして不気味に増殖を続けます。変異の能力とは、法案にある文言 「その他」 という言葉です。

数年後あたりから少しずつ体の不具合として症状が顕在化して来る筈です。この Virus 疾患には、恐らく医療は太刀打ち出来ず、やがて宿主は早晩、免疫不全状態に陥り、生き延びたとしても生気のない不健康状

態での病人人生を送らざるを得なくなると私は思っています。それほど大きな力を持った Virus です。国民を守る為に存在する憲法を自由に骨抜きに出来ます。

今まで私たちが「普通」と考えていた社会生活が根本から脅かされます。人間同士が地域でつながる、仕事でつながる、お互いに助け合う、そういった社会生活には「信頼」「常識」「思いやり」など市民としての当たり前の情報交換や支えあいが基本になっています。現代社会はモニターが発達し、「監視社会」といわれます。しかしモニターは幾ら多くても映像情報に過ぎない。この法は人間の思考、言動、行動、人間関係の根底に入り込んで来ます。

沖縄の自民党国会議員は一昨年、党本部の方針に異議を唱え、全員が野党と同じく基地の県外移設を公約として議席を得ました。沖縄は昨年、あらゆる困難を乗り越えて、全市町村長、議長が完全に一致して県外移設の要望書を政府に提出しました。人間が生きるのに必要な最低限の環境を要求しています。爆音、レイプ、米兵運転の車に轢かれても、保障どころか場合によっては裁判権もなく泣き寝入りしなくてはならない現状。憲法も守ってくれない日々送っています。昨年末、恫喝により全員が県内移設に方向転換しました。

脅しは激しいものです。

他人を踏みつけて生き延びる勢力が世界的に見事に暗躍しています。形として見えるのは「多国籍企業」と呼ばれるものがそれに一番近い。今、世界は経済学でいう「神の見えざる手」などではなく、情報戦に長けた一部の勢力が「下等な人間」「理性なき人間」の強さを発揮して動かしている面も大きいと思います。

わかり易く言えば、辺野古に基地を新設したいのはアメリカ国防省ではない。アメリカは日本がお金だけ出してくれれば場所はどこでも良い。

日米安保で飯を食っている好ましくない大きな勢力が太い地下水脈を形成しているのです。

私が書いているこの文章も、自由に書けるのはもう期限付きだと言うと大げさに感じられるかも知れません。しかし歴史は最高の心理学、行動学のテキストです。

私は「人間」という不完全な動物が好きだから医師を志しました。不完全でも「人間らしく」生きようとする人の役に立ちたいと考えました。

私はこれからも人間を好きでいたい、と思っています。



札幌弁護士会が呼びかけた「STOP! 秘密保護法」デモには、上田文雄札幌市長も、弁護士の一人として参加（2013年11月27日）

## 今起こっていることをどのように捉えたらいいのか

遠藤 高弘（勤労者歯科医療協会理事長）

特定秘密保護法について、とりあえず思っていることを書くことにする。法案内容の解説は多数のパンフや新聞記事が出ているのでそれをお読みいただきたい。一番大事なのは、なぜ今このようなことが目の前で起こっているのか、高い視点で、あるいは長い時間軸でよく把握することが重要だということだ。私の意見に対し疑問に感じたら、ぜひご自分で調べて欲しい。

一つは、この法は戦前の軍機保護法とほぼ目的はいっしょで、ただ今回はその軍事機密をアメリカと共同で保持しようとするものである。なぜアメリカと？ なぜ軍事力を拡大し戦争準備を？ア

メリカの国力が衰退している今、幸福の科学が言っているように日本は自力で中国らに対応してはならないということ？

一つは、今回の異常な国会運営は、強力なアメリカと財界の圧力が背景にある。実質的に、日本はアメリカの占領国である。政治的にアメリカの意向にそった国作りを進めてゆく日本の首相は、中曽根、小泉元首相のように長期政権となり、脱原発を唱えた菅元首相は瞬時にアメリカと財界に引きずりおろされた。終戦の時に日本は連合国からいろんな処理が考えられたが（朝鮮やドイツのように分割統治するなど）、結局マッカーサーを

司令官とした GHQ が日本の民主化を進めると宣言して日本国憲法素案を作り、多くの民主的改革を行った。その後赤狩りも行った。その背景には、日本の軍事力や国力に対する警戒もあった。当時のソビエト連邦が今の中国のように領地拡大政策をとり、シベリア抑留で思想教育した日本人（私の義父も抑留された）を帰国させたことに対する措置でもあった。人間の自由と開放を最終目標とする共産主義、自由と民主主義をうたう資本主義は、結局のところ当時のソビエト連邦が恐怖の専制政治（エセ共産主義）に陥りその後崩壊（1917年の革命からたった 70 年）、アメリカは現在著しい格差のある全体主義社会となり、国内の自治体はあと数年でほとんどが財政破たんすると言われている（堤未果の本参照、独立宣言から 200 年ちょっとなのに…）。人類はどういうやり方で、豊かに幸せに地球全体で自然と協調して発展できるのだろうか？なぜ日本人は、戦後史や日本国憲法を義務教育で習わないのだろうか？

一つは、資本主義社会が世界的に成熟する一方矛盾も激化し、ここ 10 年でグローバル産業の異常なやり方は常軌を逸していること（モンサント社の遺伝子組み換え種子と超農薬を毎年買わないと作物を育てられないところが世界的に拡大、マクドナルドが社内報でハンバーガーは健康に良くないと通知、などなど）。需要と供給のアンバランスや資本の極端な集中が起こるのは、マルクスが「資本論」の中ですでに 100 年以上前に明らかにしている。私たちは資本主義社会の中で生きているので「資本論」を学ぶべきだが、それが困る人たちがいる。そのため日本では「左翼」が差別用語となっている。

最も利益率の高い商品は軍需兵器関連である。スウェーデンなどは社会保障で世界の最先端と認められているが、実は兵器産業では世界有数の輸出国でもある。自分の国が戦争に加わると疲弊するが、他の所で戦争してもらおうと儲かりまくるのである。私たちは戦争と社会保障は両立せず逆行すると学んでいるが、武器輸出三原則をあっさり変更した日本は三菱重工、富士重工、東芝など儲かりまくるのである。特定秘密保護法の大きな目的は、これを隠すことである。実は日本は大変戦争を続けた国であったし、関連した特需で儲けた国であった。1894 年日清戦争、1904 年日露戦争、

1914 年第一次世界大戦で勝利、その後国際連盟の 5 つの常任理事国にさえなった。第二次世界大戦では敗退したが、朝鮮戦争、ベトナム戦争で儲けた。なぜこのような歴史を日本人は義務教育で学ばないのだろうか？明治維新後の戦前の日本は、奇跡的な集権国家づくりに成功し、実はアジアの中で初めて国家軍を形成した。そこに神道や天皇制、軍事勅諭、教育勅語が大きな要素として存在しているが、私達はそのことをどれくらい知っているのだろうか？

一つは、これまで国家機密法案（スパイ防止法）1984 年、共謀罪の国会上程に対して起こった国民的な運動の力が大変弱まっている。北海道新聞、赤旗新聞、琉球新報はがんばっているが、大手新聞社や TV 局メディアは財界・政界に囲い込まれてしまった。もうすでに監視する法律が日本では通過しているが、ネットが大きな役割を担っている。しかし秘密保護法案可決前に香山リカ書いていたように、現在の若者の一部は「反対！反対！」と唱えている集団に対する忌避感を持ち、逆説的にいい法案なのではと感じているという。脱原発運動でも、これまでのような集会で目にする「のぼり」の旗は忌避される。建設的な反対運動というか、現在の権力者と問題を実質的に前進させることのできる市民運動の在り方を、根本の思いは変えず、しかしやり方を模索する時代ではないのだろうか？

最後に、明治維新で誕生した大日本帝国は約 70 年で敗戦とともに消滅し、現在アメリカの占領国でありながら、高度成長で大変豊かにそして平和憲法を備えた国となってから 70 年近くになることを考えたい。誰がどう考えても次の段階に進む時期なのだが、どっちに進むべきなのか？それは誰が考えて決めてゆくべきなのか？そうなった時に私たちには日本の現状、世界の現状を正しく知る必要と権利がある。大日本帝国憲法には義務ばかり書かれているが、日本国憲法には国民の権利は絶対侵すべからず、そして不断の努力で維持するものと書かれている。そう考えたときに、この特定秘密保護法は、私たちが将来を考えるための情報を遮断して見えなくしてしまうし、証拠を残さないし、伝えられない。私はそれがこの法律の最大の問題点だと思う。この法律は公布されたが、施

行されるまで最大 1 年間時間があり、廃案に向けて運動を続けなければいけない。また、来年国



会上程が予想されている共謀罪はさらに深刻で、これは戦前の治安維持法に匹敵し、大変陰鬱な世の中になるだろう。合わせて、改憲しなくても実質的に憲法九条を解体する、集団的自衛権を認めた安全保障に関する法律が上程される予定であり、日本のあり方を変える TPP 参入とともに阻止するために頑張らなくてはならない。私たちは選挙に向けて運動する必要があるし、強行されても共同組織や地域を守るために最大限の知恵とエネルギーを発してゆく必要がある。

日本はある意味人類の発展を逆行させているが、世界各国の動きはそうではない。できるだけ目を広げて連帯を考える時期に来たのだと思っている。

札幌弁護士会主催の集会で御挨拶される  
札幌弁護士会 中村隆会長

(2013年11月27日 札幌・大通公園)

## 憲法セミナー

### 『原子力 負の遺産』出版記念トークライブ」開催しました

12月8日、紀伊國屋書店札幌本店1Fロビーで、執筆者の一人である関口裕士さん（北海道新聞報道センター記者）をお迎えして開催しました（後援 道新出版センター）。

日曜の夕方に80人ほどの市民が参加されました。関口さんがこの本（連載）を始めるに至った動機から、「私自身は、原発に反対です。それは電気が足りてるとか事故が起きたら大変ということではなく、『核のゴミの処分方法が見つからない』からです」と明確にお話しされていたことが印象的でした。

また、直前に成立した秘密保護法について、「こんなひどい法律を通してしまったことに、ジャーナリストの一員として申し訳ない思いでいっぱい」と率直に語っておられました。

これまでも、当会のとりにくみを熱心に取材していただいている関口記者の心根に触れた思いがした講演でした。



医療九条の会・北海道  
会員の皆様へ

## 医療九条の会・北海道 第8回定期総会 ならびに 記念講演会のご案内

2014年1月1日  
共同代表 黒川 一郎

新年あけましておめでとうございます。

安倍政権がその本性を次々と露わにし、2014年は文字通り「憲法」を主軸として、権力者側と国民とのせめぎ合いが鮮明になると予想されます。全国各地・各層の九条の会が、その持てる力をおおいに発揮すべき年です。

その年の冒頭に、本会総会ならびに記念講演会を開催いたします。

大変ご多忙の中とは思いますが、みなさま万障お繰り合わせの上、ご出席いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

■ 日時 2014年2月22日(土) 午後3時から 記念講演会  
午後5時45分から 定期総会

■ 会場 北農健保会館 (札幌市中央区北4西7)

### ■ 記念講演会のご案内

『混乱続く パレスチナ・ガザ地区 シリアからのレポート』

ー戦争・紛争を防ぐ力としての九条の役割』

報告者 猫塚 義夫氏 北海道パレスチナ医療奉仕団団長 当会共同代表  
西谷 文和氏 フリージャーナリスト イラクの子どもを救う会代表

猫塚氏は、昨年11～12月に1ヶ月間、パレスチナ(ヨルダン川西岸とガザ地区)・ヨルダンで医療支援活動をおこなってこられました。

西谷氏は、昨年12月にシリア・トルコで取材活動をおこなっています。

お二人から、混乱が続く現地の直近の状況をレポートしていただきます。

(次ページに簡単なレポートを掲載しています)

恐れ入りますが、出欠につきまして、別紙用紙にご記入のうえ、事務局までご返信いただけますよう、お願い申し上げます。お手数ですが、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

## 猫塚 義夫氏 パレスチナ・ガザ地区から

(同氏のフェイスブックへの投稿から)

ヨルダン川西岸（ジェリコ）に始まり、東エルサレム・ショファト難民キャンプ、そして私たちの活動の『原点』であるガザ地区での活動……。その後、ヨルダンでのザタリ・シリア難民キャンプでの昨年に続き2度目の視察ができました。

特に、イスラエルからの「封鎖」が続くガザ地区では、今日の「ゲットー」のごとく、住民の経済的困窮と人権抑圧が続けられています。

私たちの活動がただちに、ガザの住民の解放につながるわけではありません。しかし、「今そこにある困難」に対して彼らの苦しみが少しでも



も軽減されることを願って活動を続けることにも意義があると考えています。そしてできれば、パレスチナとガザの現状をありのまま皆様のところへ届けることができれば、望外の喜びでもあります。

今日は、ガザ地区の最終日ですが昨日と同様に、強風・強雨のままです。

まず、ヌセイラート難民キャンプにあるwomen centerのミーティングに参加。私からの「生活で最も困難な課題は何ですか？」という質問にたいして、切実な意見が続出しました。その多くが封鎖状態にあることに起因しています。「封鎖による燃料不足で1日16~20時間の停電と資材の不足」「産業力低下による失業の増加」「失業のストレスによる家庭内暴力」「貧困家庭への緊急融資の打ち切り」「家庭内諸問題についての女性の法的知識の不足」「子供の教育問題」などなど、話は尽きません。しかし、こうした深刻な議論の後の明るさが「ガザの強み」とも感じました。その後、同じ難民キャンプの診療所に立ち寄り、リハビリ施設を見学……。来年には、ガザ地区に『運動療法』を確立する第一歩にすることが頭をよぎりました。（写真は、ガザ地区のみなさんと）

## 西谷 文和氏 シリアから

(同氏が代表を務める『イラクの子どもを救う会』ブログより)

12年9月、13年3月と2度に渡り、シリアに入国したが、今回が一番状況が悪かった。過去2回は、トルコ・シリア国境地帯は、自由シリア軍の支配下にあったので、国境さえ越えれば、難民キャンプに泊まり込んで取材することもできた。しかし今回は、アルカイダ系のイスラム原理集団「ダイシュ（ISIS）」が、自由シリア軍と戦闘を繰り返し、外国人ジャーナリストである私は、拉致・殺害の対象になり得た。実際に12月10日から戦闘が激化し、トルコ・シリア国境は閉められてしまい、その状況が本日（12月26日）まで続いている。私は12月9日にシリア国内に入ることができたが、決行するのが1日遅れていたら、「トルコ旅行」になっていたところだった。

今のシリアは雪がつもり、夜間の気温は氷点下まで下がる。支援物資の食料も届いたり届かなかったりで、「凍死&餓死」の危機にある。自由シリア軍とダイシュ（ISIS）の戦いをあざ笑うかのように、アサド軍のミサイル攻撃がやってくる。国境の町、バーバルハワーには無数のテントが林立しているが、そのキャンプに、12月11日、アサド軍のミサイル攻撃があり、約20人が殺された。車の中から撮影した、あのテント群の中にミサイルが落ちてくる。夜は、自由シリア軍とダイシュ（ISIS）のロケット弾の撃ち合いになる。難民たちはそんな夜を震えながら過ごす。そしてシリア国内に入ろうとするジャーナリストが激減しているので、そんな現実が伝わりにくい。絶望的な状況だ。

**医療九条の会・北海道  
会報 第23号**

◎発行日／2014年1月5日

◎発行責任者／松崎 道幸

◎連絡先／札幌市北区北14西3-1-12 ◎電話(011)758-4585 ◎FAX(011)716-3927

◎<http://iryo-9jyo.net> 9jyo@dominiren.gr.p